

市指定

所在地：真南条上

ないこうかもんきょう

## 内行花文鏡

四葉座鈕内行花文鏡と呼ばれる鏡で、真南条上掛内山から昭和33年に発見された。鈕のまわりに蓮の花（四葉座）を配し、その外側に8個の弧線を描き、外区には重圈文と弧線を充填し、鏡が光り輝く様を表現している。

鏡は古代の人々にとって何かを映す道具ではなく、呪術的な宝器としてまた首長権のシンボルとして扱われていた。当鏡は形式から見て古墳時代前期（4世紀）のもので、日本で製作された<sup>ばうせいきょう</sup>銅製鏡と推定される。

直径14.8cm。

